会議名　PWSC ミーティング

日時　2019年10月30日(水)　 9:30-18:00

場所　バミューダのフェアモント・サウザンプト

国際委員会　須藤正和

上記の場所で行われ、例年ですと二日、または三日と会議が続きますが今年は一日で会議が終わりました。お陰様で翌日と翌々日に委員長ベッジイとディビットと現状のパラ・ワールド・セーリング、IPC、パラリングピックの復活、ガバナンスなどについて意見交換をする事ができました。会議の議事録については毎年送られて来る予定ですので、到着次第転送します。ここでは大事なポイントのみを書かせて頂きます。

〇IPCレポートについて、WSがいくつもの誤りを指摘し、訂正を求めたが応じてもらえなかった。WSもPWSCもこれについて怒りを覚える。今後はロビ活動とIPCのメンバーに対してセーリングの理解者を作って行く必要である。

〇新しいパラ・ワールド・セーリング戦略のプレゼンテーションが行われ、これからのパラセーリングの成長を計測する方法について議論が行われた。(別紙Strategy 2020-2023参照)

〇クラス分けについて予算全体の削減が強まる中、派遣費用を削減予定、今後開催国での資格保持者を増やして対応を進める。ただ、ハンザークラスでは選手のクラス分けをする事に反対している、ランキングで必要な選手だけクラス分けを行う事も検討。

〇2021年に大分県別府市がインターナショナルの大会開催に手を挙げ、予定は四月頃、プレゼン資料は手違いで資料のない状態で私が開催地の紹介をして、萩原さんが予算確保などの面から正式決定ではないものの4月21日から5月1日まで、約80人規模の開催を目指している旨伝えた。合わせてRSベンチャーにベンダーサポートが必要な点、2.4mRは持ち込みが必要な点を説明してくれた。出席委員から持ち込みに協力したいとの声、また事務局からは調達に協力を惜しまないとのコメントありました。

〇艇種について、ハンザー2.4は欧州中心に幅広く普及、303は日本を筆頭に世界で普及している。RCベンチャーの普及はベンダーがどの程度コミットしてくれるか注視の必要がある。また安全性に関する疑問もある。SV14について、WSのRobよりSV14の報告がありましたが問題点があって、いくつかの問題は改善されたがまだ改善する余地がある。(別紙SV14参照)

〇資金問題について、普及にあたり大きな問題は資金調達。

〇WSはトラストを設立、セーリングへのアクセスをよくして参加する事の意義を伝えるために役立てる。スポンサー企業などを模索

〇江の島WSCについて、「日本開催は難しい」との現状報告にとどめ、ＪＳＡＦ担当者から最終連絡を待つよう伝えた。ＷＳはハンザーだけでも開催を検討するよう希望。ＪＳＡＦからの連絡が必要な状態。

〇ランキングシステムの立ち上げについて、大会のレベルによってポイントを付ける。時期未定。年一回のワールドチャンピョンシップを四年に一回にして選手の負担を減らす。

〇パラ復活について、2024年のフランス大会の復帰は残念ながら難しい。いまはIPCの意向に沿って、レースの参加国数や五大陸に渡る国の数などを増やして行く、また、女性の比率を上げるなど、改善できるところをして行く。